

[横浜美術館]

平成 23 年度業務報告及び収支決算

[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体]

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階一部3階建
敷地・延べ床面積	延床 26,829.4 m ²
開館日	平成元年 11 月 3 日

2 指定管理者

共同事業体名	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体
代表構成団体	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 20 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

3 平成 23 年度総括

第 1 期指定管理期間の後半に入り、共同事業体解散準備と財団単独指名による第 2 期指定管理の準備に着手しました。横浜市との政策経営協議会において、これからの 10 年の取り組みを提案、協議しています。震災の影響を受けて、事業・運営ともに非常に厳しい年度でしたが、主会場となったヨコハマトリエンナーレ 2011 をはじめとする各展覧会の成功により、安定した財政基盤を維持することができました。

子どものアトリエでは、震災の影響として、4～5 月ごろまでは講座の申し込みを手控える傾向がみられましたが、全体として例年並みかやや上回る結果となりました。トリエンナーレの開催年でもあり、鑑賞プログラム「夏休み子どもフェスタ 2011」もトリエンナーレの内容を活用して取り組みました。学校連携に関しては教師と連携した講座指導の手法が定着し、授業に役立てられる指導の在り方など個別の相談も積極的に受けました。子どもたちが集まる施設であるため、今後は災害時の防災対策が課題といえます。

営業・広報では、広報関連の成果として、「広報露出・掲出の量・質の向上」「近隣広報の新規開拓」「ホームページのコンテンツの充実」「広聴による運営改善」があり、企画展の集客、そして市民の皆さんとのコミュニケーションを実現することができたと思います。

観客誘致、塾、ファンドレイズ関連での目標も達成し、事業実施の過程では、鑑賞普及や美術普及、教育普及に努めたとともに、横浜市の施策に貢献することができました。

4 業務報告

■自主事業に関する振り返り■

(1) 収蔵美術品等の収集・保管・管理・調査・研究について

1) 専門的研究に基づく作品収集

<ul style="list-style-type: none"> ● 内部検討委員会への提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 購入候補、寄贈寄託候補作品について、専門的な観点から必要な調査研究を行い、その妥当性を検討します。検討に基き策定された収集候補作品案を内部検討委員会に提案します。 ・ 収集方針に基づく候補案の策定に加え、「中期重点取組方針」も鑑みて作品を検討し、内部検討委員会に提案します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 収集方針および「中期重点取組方針」に基づき、収集候補作品案を提案します。 ■ 市民に親しまれるコレクションを形成できるよう、魅力的な購入作品候補案を提案します。また、寄贈候補作品案を提案します。 ■ 歴史的に見て本市とゆかりの深い貴重な美術作品等の収集案を提案します。 ■ 国際的な活躍が期待できる優れた若手アーティストの作品収集を提案します。 ■ 内部検討委員会における提案:年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今年度の収集作品を横浜市に提案する内部検討委員会を10月21日に開催しました。 ■ 収集方針に基づき、フランスで活躍した洋画家、藤田嗣治、新版画の草創期の作家、吉田博など、市民に親しまれる作品の購入を提案しました。また、当市にゆかりの深い井上良斎の陶磁器、下村観山の下絵や、コレクター小島烏水の関連資料などの受贈を提案しました。「ヨコハマトリエンナーレ2011」出品作品の中から、岩崎貴宏の作品の購入および寄贈を提案しました。

2) 適切で安全確実な保管・管理の実現

<ul style="list-style-type: none"> ● 収蔵美術品等の正確なデータベース構築 美術作品、作家の履歴データを遅滞なく入力します。 ● 収蔵庫等の保管環境の監視 中央監視室との連絡を密にして、環境の異常を遅滞なく把握し、問題点を報告します。また、可能な範囲で対策をとります。 ● 収蔵美術品等の貸出 決められた手続きを踏まえて、美術品等を他施設の事業のために貸与し活用します。 ● 収蔵美術品等の特別利用(熟覧) 決められた手続きを踏まえて、研究者や専門家に収蔵美術品等の熟覧の機会を提供し、当該作品の研究に資します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 収蔵美術品を正確にデータベース管理し、収蔵庫等の保管環境を監視します。 ■ 適切な手続きに則り、収蔵美術品を国内外の他施設に貸し出し、また、特別利用の機会を提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3月末日現在で、3,850点の作品のデータ修正を行い、所蔵品データベースを訂正しました。 ■ 中央監視室から毎日提示される収蔵庫・展示室の温湿度データを保存研究チームで確認し、異常がないか監視しました。 ■ 他館への作品貸出、特別利用(図版貸出・熟覧・撮影)を、3月末日現在で下記の通り実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品貸出・返却:50件 123点

	<ul style="list-style-type: none"> ・図版貸出:72 件 200 点 ■ 熟覧／撮影:3 件 46 点
--	--

3) 計画的な修復の遂行

<p>● 修復計画の策定</p> <p>前年度末もしくは当該年度当初に、収蔵美術品の修復(洗浄、補彩、成形、充填、ルースライニングなど)、新規額装・マット装、新規表装、額・表具の修理などについて、優先順位を決めて、年度修復計画案を策定します。この計画案に基づいて、修復業務を外部専門業者・専門家に委託します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 年度修復計画を、前年度末もしくは当該年度当初に策定します。 ■ 「横浜美術館コレクション・フレンズ」プログラムの支援を受けて、コレクションの修復や保全、展示ガイドツールの整備を進めるなど、市民の力によってコレクションを守ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜美術館フレンズ事業の対象作品を念頭において、年度当初に所蔵品の修復計画を策定しました。3月11日の地震による被害を受けた彫刻「レカミエ婦人」は10月には修復が完了しました。佐伯祐三「滞船」、河野通勢「崖」「自画像」の額に、フレンズの協賛で低反射ガラスを装着しました。

(2) 美術作品等の展示及び活用について

1) 企画展・コレクション展

<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の3点を念頭に置いて、多彩な企画展を開催し広く美術の普及を図ります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. メディアとの共催・連携によるポピュラリティの高い展覧会を実施します。 2. トリエンナーレの実施期間中、コレクション作品を安全に保管します。 3. 今後さらなる躍進が期待される若手・中堅アーティストの個展を実施します。 ● 横浜らしさと多彩さを両立させたコレクション展を開催し、当館を代表する所蔵品をバランスよく展示します。 横浜美術館を特徴づける主要作品を中心に、収集分野をバランスよく紹介するとともに、纏まった数を擁する作家等を中心にしたテーマ展示を合わせて行い、コレクションの横浜らしさを様々な視点から演出します。 ● コレクション展・企画展で、ワークシートや鑑賞会等の教育普及プログラムを実施します。 ● 市民参加型のコレクションの支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」事業を運営し、コレクションの鑑賞と理解及びコレクションの保全や展示ガイドツールの改善に役立てます。 ● 地域商業施設や関係組織との連携企画展において、各展覧会の条件・内容に応じて、地域商業施設や関係組織の連携事業の立案・実施に積極的に協力します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 次の企画展を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年 2011 年 4 月 2 日(土)～6 月 26 日(日) 75 日間 入場者見込み 240,000 人 ・ ヨコハマトリエンナーレ 2011 2011 年 8 月 6 日(土)～11 月 6 日(日) 87 日間 入場者見込み 83,000 人 ・ 松井冬子展(仮称) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展 <p>以下の通り、企画展の準備および実施に取り組みました。</p> <p>「プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年」の開催を予定し、開会直前の段階まで準備を進めていましたが、3月11日の東日本大震災とその後の原子力発電所事故の影響により、ロシア連邦文化省が作品貸出を許可せず、これにより開催見合わせとなりました。この事態をうけ、急遽、館蔵品を活用した代替展を、朝日新聞社との共催で下記の通り実施しま</p>

<p>2011年12月17日(土)～2012年3月18日(日) 75日間 入場者見込み 30,000人</p> <p>■ コレクション展を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1期 4月2日(土)～6月26日(日) 第2期 12月17日(土)～3月18日(日) <p>8月6日(土)～11月6日(日)は、横浜美術館のコレクションをヨコハマトリエンナーレ 2011の展示作品として活用します。</p> <p>■ コレクション展、企画展における教育普及プログラムを強化します。企画展の性質に応じて地域商業施設や関係組織との事業連携をはかります。</p>	<p>した。</p> <p>「生誕120年記念 長谷川潔展」 会期:2011年4月29日(金)～6月26日(日) 日数:52日間 総入場者数:23,835人(見込み:16,120人)</p> <p>「ヨコハマトリエンナーレ 2011 OUR MAGIC HOUR 世界はどこまで知ることができるか?」 会期:2011年8月6日(土)～11月6日(日) 日数:83日間 横浜美術館総入場者数:184,562人</p> <p>「松井冬子展—世界中の子と友達になれる」 会期:2011年12月17日(土)～2012年3月18日(日) 日数:75日間</p> <p>■ 総入場者数:71,550人(見込み:30,000人)</p> <p>■ コレクション展 以下の通り、コレクション展の準備および実施に取り組みました。</p> <p>コレクション展 2011-I 会期:2011年4月2日(土)～6月26日(日) 8セクション:269点</p> <p>コレクション展 2011-II 会期:2011年12月17日(土)～2012年3月18日(日) 8セクション:270点</p> <p>■ 教育普及プログラム 【ヨココレファイル】 コレクション展来場者が、展示作品に親しみ、鑑賞を深めるための補助ツールとして、『ヨココレファイル』(1～3号)を展示室に設置した。また、会期中関連ワークシート3種の回答を来館者から募集し、計120通を順次会場に掲出しました。</p>
--	--

(3)情報の収集及び情報化、提供及び活用について

1)ニーズに対応した美術情報の提供

<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の収集、整理、保存 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術に関する図書資料(和書、洋書、和洋展覧会カタログ)、非図書資料の収集、整理、保存を行います。 ・ 継続図書、和洋美術雑誌を継続して購入するとともに、寄贈および資料交換にて収集を行います。 ● 蔵書管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書資料について書誌データの作成、登録を行い、蔵書管理システムに反映させます。 ・ 年に一度蔵書点検を実施し、所蔵確認を行います。 ● 資料の提供
--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者からの閲覧申し込みに応じて閉架の資料を出納します。 ・ 利用者からのレファレンスに対応します。 ・ センター内に展覧会関連資料コーナーを設置するとともに、映像資料も紹介し、展覧会事業を支援します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 資料の簡易な修復や非図書資料の整理に、ボランティアを公募し受入れます。 ● インターネットを通じて広く一般に蔵書検索(OPAC)の公開を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術情報センター蔵書検索(OPAC) ・ ALC : Art Libraries' Consortium(美術図書館連絡会) 8館 10室横断検索 ● 美術情報センターの認知度を上げるため、バックヤードツアーなどの普及事業に取り組みます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 資料の収集、整理、保存につとめます。 ■ 美術図書と映像を活用して展覧会事業を支援し、トピック的な「特設資料コーナー」を通年約10種設置します。 ■ 美術情報センターで年間を通してボランティアを受入れます。 ■ 美術情報センターの蔵書検索(OPAC)を公開します。 ■ 市民を対象とした美術情報普及事業を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術館塾受講生へのオリエンテーションや見学会を開催します。 ・ 市民利用者対象の探検ツアー 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特設資料コーナー 4月から9月期:4種のコーナーを設置しました。 ■ ボランティア 以下の通り実施しました。 4月から5月:立案・準備 6月から7月:募集 8月以降:活動開始 延べ活動人数:58人 ■ OPAC 公開中です。 ■ メールマガジン 計4回掲載しました。 ■ 横浜美術館ホームページ「お知らせ」欄 計7回掲載しました。

(4)教育普及に対する取り組みについて

1)美術に親しむ市民の拡大

<ul style="list-style-type: none"> ● 企画展、コレクション展といった展覧会の開催を通じて、作品の鑑賞を通じた教育普及を行います。(再掲) ● 近隣在住・在勤の皆さんが横浜美術館にもっと親しんで気軽に来館してもらえる機会をつくります。(近隣プログラム) ● 産業や環境問題など市民生活に密着した問題に取り組む活動団体と連携し、新たな市民層へ美術との接点を広げる講座を実施することで市民に美術館の存在をアピールします。 ● 7点の所蔵作品の支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」を運営します。(再掲) 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展ごとに講演会などの関連事業を開催し、作品や作家その他企画内容についての一般の理解を深めます。ワークシートの活用したプログラムも実施します。(再掲) ■ 近隣住民や近隣企業の皆さんと連携して、鑑賞会を含むオープンスクールを開催します。 ■ 他団体と連携した内容の活動を年1回行います。 ■ 展覧会と連携した市民のアトリエの講座を年2回開催しま 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展ごとの講演会 「生誕120年記念 長谷川潔展」 <ul style="list-style-type: none"> ・ チャリティー・トーク 対談:竹本忠雄×猿渡紀代子 演題:長谷川潔の魅力と謎をめぐって 日時:2011年5月21日(土)14:00-15:30 会場:横浜美術館レクチャーホール

す。

■ 所蔵作品の保存と展示に焦点をあてた支援プログラムを発足し、参加者 150 名を目標に募集します。

■ 年に 2 回フレンズの交流会を開催し、コレクションに対する理解を深めてもらうとともに、支援金の使途を報告します。

主催: 横浜美術館、横浜美術館協力会

参加者: 186 名

- ・ ギャラリー・トーク(企画展示室)
会期中毎週金曜日 15:00-15:30

- ・ 長谷川潔展関連講座

長谷川潔生誕 120 年記念企画

「銅版画メゾチントの魅力」

講師 浜勝則

参加者: 18 名 全 8 回

長谷川の代表的な技法メゾチントの制作体験と講師の解説による長谷川展の鑑賞

「横浜美の職人(トーク&デモンストレーション) 版画『摺り師』の技—長谷川潔の銅版画作品をめぐって」

講師 尾崎正志(摺師)、猿渡紀代子(当館研究員)

参加者: 30 名

長谷川の研究者猿渡研究員と摺師尾崎正志氏の対談

長谷川の子で長谷川作品の刷りを手がけた経験を持つ尾崎氏による、長谷川の銅原版からの刷りのデモンストレーション

- ・ ジャイアントタンポポ・プロジェクト義援金: 974,107 円

「松井冬子展—世界中の子と友達になれる」

- ・ クロス・トーク

対談: 松任谷由実×松井冬子

日時: 2011 年 12 月 18 日(日) 14:00-15:30

会場: 横浜美術館レクチャーホール

参加者: 240 名

- ・ 記念講演会

講師: 山本聡美

演題: 「不浄の肉体をもつ聖女たち

—小野小町から松井冬子へ—

日時: 2012 年 1 月 7 日(土) 15:00-16:30

会場: 横浜美術館レクチャーホール

参加者: 132 名

- ・ アーティスト・トーク

講師: 松井冬子

演題: 「知覚神経としての視覚によって

覚醒される痛覚の不可避」

日時: 2012 年 2 月 11 日(土) 15:00-16:30

会場: 横浜美術館レクチャーホール

参加者: 240 名

	<ul style="list-style-type: none"> <p>・ ギャラリー・トーク</p> <p>日時:2011年12月23日(金・祝)、 2012年1月20日(金)、2月17日(金)、 3月16日(金) 14:00-14:30</p> <p>延べ4回</p> <p>会場:企画展示室</p> <p>参加者:約270名</p> <p>・ 横浜美術館塾「ラジオ美術館」</p> <p>対談:松井冬子×早川洋平</p> <p>日時:2012年1月14日(土)18:00-19:30</p> <p>会場:横浜美術館レクチャーホール</p> <p>参加者:145名</p> <p>・ 横浜美術館塾「ラジオ美術館」</p> <p>対談:齋藤環×早川洋平</p> <p>日時:2012年1月21日(土)17:00-18:00</p> <p>会場:横浜美術館8階</p> <p>参加者:38名</p> <p>・ 横浜美術館塾「アートクルーズ」</p> <p>日時:2011年12月21日(水)、 2012年1月11日(水)、1月25日(水)、 2月8日(水)19:00-20:45</p> <p>会場:企画展示室</p> <p>参加者:延べ111名</p> <p>・ サイン会</p> <p>日時:2012年3月4日(日)、3月10日(土)</p> <p>参加者:延べ415名</p> <p>■ 近隣大手企業の就業者と横浜美術館、横浜みなとみらいホールの職員、合計で約100名が参加して近隣アートプログラム(第2回)を実施し、財団専門館に親しんでもらう取組みができました。平成24年度にも継続して実施する予定です。</p> <p>■ 下期にも、所蔵作品とその保存・展示について理解を深めてもらう交流会を実施しました。</p>
--	--

2)市民の創作活動等への支援

- 様々な人へ開かれた内容や、美術が苦手の人でも参加しやすい講座やワークショップを開催します。
- 地域(他団体)と連携し、作家や職人、専門家等を講師として、環境や産業等と関連した講座を開催します。
- 版画室、平面室、立体室の施設特性を生かして、市民の自立的な創作を支援するオープンスタジオを開催します。
- コレクションや企画展等、展覧会関連の内容の講座を開催します。

- 現代の作家や制作を紹介する講座を開催します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 美術の初心者向けのワークショップを10回開催します。 ■ 地域(他団体)連携した講座を5回開催します。 ■ オープンスタジオを年20コース開催します。 ■ 展覧会関連の講座を2回行います。 ■ 現代の作家や技術を紹介する講座を15回行います。 ■ 市民のアトリエ講座への年間目標参加人数を5,000人とします。 	<p>事業実施回数は、事業計画に沿って実施し、目標参加者数については上半期、目標達成しました。</p> <p>【平成23年度達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 初心者向けワークショップ <ul style="list-style-type: none"> 「版画基礎コース」17名6回7コース 「初めての絵画教室」15名6回3コース 「陶芸を楽しむ『花器をつくりましょう』」10名3コース 中学生講座「横浜の木でつくるスプーン」10名2回1コース 「版画でつくる季節のカード」銅版画10名シルクスクリーン8名4回1コース ■ 地域(他団体)連携講座 <p>横浜の自然環境について関心を持ってもらうきっかけを提供することを目的とし、横浜市環境創造局の《横浜みどりアップ計画》と連動、環境活動支援センター等と協働し開催。</p> <p>《横浜みどりアップ・ワークショップ》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「やさしい積み木づくり 森からのプレゼント」10名1回2コース 「色の散歩 森の恵みの標本箱づくり」16名2回2コース 「光れ！ハマの泥だんご」20名2回1コース <p>横浜みどりアップ・ワークショップ展をカフェ小倉山にて開催(2/10～2/19)</p> ■ 横浜美の職人 <p>トーク&デモンストレーション</p> <p>「再発見！表具の魅力」</p> ■ 表具師・横浜マイスターを招き鑑賞や保存のための表具師の仕立て等について紹介。また、学芸員と連携日本画作品鑑賞へと導いた。 ■ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム <p>横浜市立大正中学校で絵具や絵画修復等についてアウトリーチ。2日間</p> <p>横浜市立汐見台中学校にて美術表具師実演と体験のア</p>

	<p>ウトリーチ。2日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オープンスタジオ <ul style="list-style-type: none"> 「オープンスタジオ平面室人体クロッキー」20名10回4コース、7回2コース 「オープンスタジオ平面室人体を描く」18名5回2コース、4回2コース 「オープンスタジオ立体室テラコッタ」10名6回5コース 「オープンスタジオ立体室木の作品」10名6回5コース 「オープンスタジオ版画室」19名1期、2期、3期全84回 ■ 長谷川潔展関連講座、コレクション展の鑑賞を深めることにつながる講座として、ブロンズ制作、陶芸、磁器、版画、絵画に関する講座を開催。 ■ 現代の作家や技術を紹介する講座として、メゾチント、ガラスリツェン、現代木彫、金属彫刻、テンペラ画、磁器、デッサン、リトグラフ、名人大工道具と妙技、練香委等、13種類の講座を開催。 ■ 展覧会関連講座 <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川潔展関連講座 <ul style="list-style-type: none"> 長谷川潔生誕120年記念企画 「銅版画メゾチントの魅力に迫る」 講師 浜西勝則 「横浜美の職人〈トーク&デモンストレーション〉版画『摺り師』の技—長谷川潔の銅版画作品をめぐって」 講師 尾崎正志(摺師)、 猿渡紀代子(当館研究員) ・ヨコハマトリエンナーレ2011関連 <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ「ベジタブルカービング」 参加者12名1回 ■ 市民のアトリエ.平成23年度の参加者数延べ5,700名。
--	--

3) 子どもに対する取り組み

- 学校教育と連携したより充実したプログラムを実施します。
 - ・ 学校のためのプログラム

横浜市内の幼稚園・保育園35園、小学校35校、特別支援学校+区ごとの個別支援学級団体+各種学校20団体を対象に、素材と関わるワークショップ、および鑑賞活動を行います。

- ・ 「学校のためのプログラム」のトリエンナーレ
開催中にあたる日程にはトリエンナーレに配慮したプログラムも提供します。

- 魅力ある講座を企画・開催し、各種講座の周知に努めます。
 - ・ 個人の造形講座
 - ・ 教師のためのワークショップ
- 親子のフリーゾーンを開催し、子どもの意欲を育てる「子育て支援」と位置づけて親子に開放し、若い子育て世代と美術館とをつなぎます。
- 教師との連携を強化します。
 - ・ アートティーチャーズデー
企画展ごとに市立小・中・高校の美術教師を対象としたレクチャーを開催し展覧会の周知に努めます。
 - ・ 講演・研修
放課後や夏休み期間を利用し教師や学生への研修を積極的に行います。
 - ・ 学校と連携して鑑賞教育への導きを行います。
- 夏休みを活用して鑑賞プログラムを実施します。中学校の美術教師からなる「アートティーチャーズサポーター」と協働して小・中学生への対応をします。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どものアトリエ講座定員・定数の 100%確保を目指します。 ■ 学校のためのプログラム 年間 90 日 ■ 個人の造形講座年間 22 講座 (定員 475 名) ■ 教師のためのワークショップ春期講座、夏期講座各 2 日間 (定員各 50 名) ■ 親子のフリーゾーンを年間 42 回開催します。 ■ アートティーチャーズデー 企画展ごとに 1 回開催 ■ 夏休み子どもフェスタ 2011 を開催します。横浜トリエンナーレに連動した内容で実施します。 	<p>事業実施回数は、事業計画に沿って実施し、目標参加者数については年間の目標を達成しました。各事業について内容を深めるとともに、学校との連携についての充実を図っています。</p> <p>【平成 23 年度達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 個人講座 22 講座終了。全体の定員に対して 536 人、113%の参加。 ■ 親子のフリーゾーン 42 回終了。 22,844 人参加。(1 回平均 544 人) ■ 学校のためのプログラム 89 校、6,904 人参加。(1 校、大人数のためキャンセル) ■ 3 月 2、6、7 日、学校のための鑑賞プログラム 2 校、239 人参加。学校と連携した鑑賞プログラムの検討を教師とともに行いました。 ■ 教師のためのワークショップ夏期・春期講座、4 日間の参加者のべ 250 人(参加率 126%) ■ アートティーチャーズデー3 回開催、95 人参加 ■ 5 月 5 日「こどもの日の親子ワークショップ〈小さな版をプレス機で刷ってみよう〉於:グランドギャラリー、「長谷川潔展」関連市民のアトリエ、学芸との共同事業。 参加人数:100 名 ■ 企業連携プログラム(HTA)において、7 月 25 日「らんま先生環境パフォーマンス+節電ポスター制作」への協力をしました。ポスター制作参加者 92 人。8 月 27 日天王町子ども

	<p>フェスタで工作ワークショップを実施。参加者 188 人。</p> <p>12 月 8 日安部幼稚園(港南区)にて工作ワークショップを実施。参加者 83 名。</p> <p>6 月 12 日、10 月 9 日、2 月 12 日親子のゾーンにてHTA 関連クラフトコーナーを設け季節にちなんだ工作を提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 夏休み子どもフェスタ 2011 の開催。2009 年より発足した「アートティーチャーズサポーター」7 人が「子どもフェスタ」で活躍。インターン生も加わって子どもたちの鑑賞のサポートを行いました。今回はトリエンナーレのためツアー形式で行いました。6 日間会期 484 人の参加者(内訳 3%幼児、26%小学生、18%中学生、保護者 36%)。 ■ 学校連携、人材育成 事業の空き日程を活用し、任意に依頼のあった教師や学生に向けた研修を実施しました。12 件、参加者 400 人。 ■ 財団中期計画「子ども事業企画会議」への参加。H24 年度開始を目標に財団HP内にヨコハマ・アート・ナビの子ども事業版「コドモナビ」の立ち上げを準備中です。 ■ 子どものアトリエ、平成 23 年度の参加者総数延べ 33,112 人。
--	---

(5)横浜トリエンナーレについて

1)トリエンナーレ本展について

<ul style="list-style-type: none"> ● ヨコハマトリエンナーレ 2011 の主会場として、魅力的な国際美術展の企画および施設運営に全面的に協力します。 ● 横浜トリエンナーレ組織委員会と連携をはかり、スムーズな運営体制を築きます。 ● ヨコハマトリエンナーレ 2011 の出品作家および作品について、情報を収集、提供し、企画立案に寄与します。 ● 展覧会実現にむけて作家、出品者等との連絡調整を行います。 コレクションを持つ会場施設の強みを活かし、横浜美術館会場の企画展示に横浜美術館学芸員が関わります。 ● 横浜美術館の施設については、ヨコハマトリエンナーレ 2011 の主会場として案内、警備、清掃、施設管理を確実にを行い、展覧会を安全に運営します。 ● 次回以降の横浜トリエンナーレ開催にむけた準備を行います。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 創造都市事業本部や組織委員会と調整し、2011 年 8 月 6 日(土)から 11 月 6 日(日)まで、ヨコハマトリエンナーレ 2011 の主会場とします。 ■ ヨコハマトリエンナーレ 2011 のテーマに沿った作家の出品を達成するとともに美術館のコレクションを活かし、両会場の展示構成を行います。またヨコハマトリエンナーレ 2011 の出品アーティスト選定に必要な基礎的調査を担当学芸 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定管理外の横浜トリエンナーレグループとしては主催組織の一翼を担い2011 年 8 月 6 日(土)から 11 月 6 日(日)までヨコハマトリエンナーレ 2011 を横浜美術館を主会場に日本郵船海岸通倉庫および周辺地域で開催しました。 ■ ヨコハマトリエンナーレ 2011 の出品作品交渉および、データ作成、集荷、展示、撤去、返却のともなう業務を学芸教育グループおよび組織委員会キュレトリアルスタッフと共に

<p>員が行います。</p> <p>■ 次回以降の横浜トリエンナーレにむけて、ヨコハマトリエンナーレ 2011 の展覧会記録の編集に協力します。記録を継続的に蓄積することにより大型国際展開催のノウハウの継承に貢献します。</p>	<p>行いました。</p> <p>■ トリエンナーレに関する広報業務全般を担いました。</p> <p>■ 横浜美術館の指定管理者としては横浜トリエンナーレ組織委員会と契約を締結し、ヨコハマトリエンナーレ 2011 の主会場となりました。</p> <p>【会場仕様日程】</p> <p>7/4～8/4 搬入・展示、8/5 内覧会、 8/6～11/6 会期、11/7～20 撤去・搬出</p> <p>■ また、展覧会終了後修復が発生した作品についてフォローしました。</p> <p>■ 市民協働に特化した記憶集の編纂、発行を行いました。</p>
--	--

2)トリエンナーレ市民協働事業について

<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜トリエンナーレをささえる市民サポーターを育成します。これにより創造都市全体の市民協働の広がりをうながします。 ● トリエンナーレ学校を定期的開催し、サポーターのモチベーションを高めます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンターと協働し、トリエンナーレサポーター事務局の運営に関わります。 ■ トリエンナーレ学校およびサポーターがかかわる関連プログラムの企画立案を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜トリエンナーレサポーター事務局を運営し、ヨコハマトリエンナーレ 2011 の他、横浜市民ギャラリーあざみ野等へのサポーター派遣を行いました。 ■ 市民サポーターとともに、ヨコハマトリエンナーレ 2011 ビジターセンターの運営を行いました。 ■ トリエンナーレ学校およびサポーターサロンを開催し、サポーターの育成を行いました。 ■ 市民協働の予算は、財団本部でオペレーションしているため、現場(美術館内の事務局)との決裁等に煩雑さが増し、また、組織委員会との有機的な連動に若干の溝がありました。今後の課題として認識します。

3)トリエンナーレ組織委員会事務局運営について

<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜トリエンナーレ組織委員会による事務局運営を支援します。 ● 事務局運営に必要な人材を派遣し、支援体制の強化をはかります。 <p>次回展以降の事務局継続にむけたシステムおよびインフラ整備を行います。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織委員会事務局に一定数の職員を配置し、スムーズな事務局運営をはかります。 ■ 次回展以降の開催に向け、本展の開催にかかる事務局体制及び、収支の検証を行い、大型国際展を継承するための組織体制及び財源計画の確立を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 美術館の指定管理の外に横浜トリエンナーレグループを配置し組織委員会事務局運営の一部を担いました。 ■ 組織委員会への職員配置が業務内容および業務量と合致していなかった他グループの応援を要請し、開催に漕ぎ着けました。

(6)その他美術の振興に関することについて

1)市民との協働・人材育成の推進

<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアの事業参画 美術情報センター、子どものアトリエ等の事業において、ボランティアが参画する場を提供します。 ● インターンを受入れ、子どものアトリエ等で実地の経験を提供し活動の理論と実践を教授します。 ● ボランティア・モニタリング 企画展やコレクション展の内容について、各年齢層のボランティアによるモニタリングを実施し、向後の事業内容の策定に当たって参考とします。 ● 美術館研修・学芸員研修 横浜美術館塾のプログラムのひとつに位置づけられている美術館研修のカリキュラムを、美術館の現場に即して立案し、人材の育成に貢献します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 美術館の各事業で、随時ボランティアを募集し市民参画の機会を提供するとともに、企画展、コレクション展においてボランティアによるモニタリングを実施します。(ボランティア 25 人、インターン 5 人) ■ インターンを受け入れます。 ■ 美術館研修・学芸員研修の魅力的なカリキュラムを立案するとともに、8 階施設等を実習に活用し、次代の人材育成に貢献します。 ■ 研修を夏季に 1 回実施します。 	<p>以下の通りボランティア・インターンの受入れや研修を実施し、目標とした指標を達成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ボランティア [子どものアトリエ、フリーゾーン] 4 月：9 人 5 月：30 人 6 月：35 人 7 月：26 人 8 月：37 人 9 月：20 人 10 月：16 人 11 月：14 人 12 月：13 人 [美術情報センター] 9 月：7 人 10 月～3 月：各月 6 人 ■ インターン [子どものアトリエ] 6 月：4 人 7 月：16 人 8 月：33 人 9 月：8 人 10 月：8 人 2 月：9 人 3 月：12 人 [美術情報センター] 8 月：2 人 ■ 研修 [子どものアトリエ] 4 月 ・財団新採用研修：16 人 5 月 ・神奈川県公立幼稚園新規採用教員研修：18 人 ・宇都宮大学教育学部 6 月 ・磯子区保育士研修：67 人 7 月 ・城西国際大学職場体験研修オリエンテーション：13 人 ・横浜市図工研究会研修：78 人 8 月 ・城西国際大学職場体験研修：36 人

	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修：15人 ・高校生職場体験研修(美術情報センター含む) ：5人 11月 ・早苗幼稚園研修：6人 ・大岡小学校職員研修：6人 12月 ・聖徳短期大学研修：25人 1月 ・港北区保育士研修：30人 ・西区幼稚園研修：45人 <p>■ 学芸員研修は、夏の節電実施とヨコハマトリエンナーレ2011の会場占有により、今年度の実施を見送りましたが、下期には補講の位置づけで、日本通運の講師がラジオ美術館(塾主催のインタビュー番組)に出演して講演しました</p>
--	---

2) 専門文化施設との連携事業の展開

- 横浜市の中期計画および財団の中期経営計画を見据え、専門文化施設の連携を進めます。財団が運営する専門文化施設間の意見交換、情報共有を進め、相互の専門性を活かした連携事業実施や、共通機能を集めた効果的な事業実施を検討していきます。
- 美術以外のジャンルと連携した企画展関連事業を立案し、来館者の関心を高めます。
- 他施設、組織との連携事業
大学との連携により、コレクション展の独自のホームページを作成します。三溪園との協働により、同園が所蔵する未刊行の史料の調査および三溪旧蔵作品のデータベース化に取り組みます。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 財団の他の専門文化施設との事業・広報連携を実施するため、施設横断的な定例的連絡会に参加します。 ■ 企画展ごとに演劇、ダンスなど他ジャンルと連携した企画展の関連事業を開催実施します。 ■ 大学と連携して美術教育プログラムの立案および広報に取り組めます。 ■ 三溪園との連携による原三溪関連資料の調査とデータベース化へ取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他の専門施設との連携事業 【長谷川潔展】 ・横浜みなとみらいホールとの連携企画 チャリティ・コンサート 「鳥の歌～生誕120年記念 長谷川潔展によせて～」 日時：2011年5月20日(金) 12:10-13:00 会場：横浜みなとみらいホール 主催：横浜美術館、 横浜みなとみらいホール 参加者：227名 ■ その他、大学、他団体との連携 ・城西国際大学メディア学部と連携して、WEBサイトの作成、告知映像の製作に取り組みました。 ・三溪園との連携で、原三溪関連資料の調査とデータベース構築を進めました。 ■ TPAMと連携しレクチャーホールで公演を行いました。

■施設の運営に関する振り返り■

(1) 施設の提供・利用について

1) 利用者の利便性を踏まえた適切な施設の提供

<ul style="list-style-type: none"> ● 休館日を活用して、保守点検等施設維持管理に必要な業務を効率的に実施します。 ● 企画展会期中は週1回の開館延長日を設け、仕事帰りや観光のお客様に気軽に立ち寄っていただけるようにします。 ● 施設維持管理業務と調整しながら、施設の収益増につながる事業を開催します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の安全な維持管理のため、休館日を活用した保守点検等を、業務の基準に基づき確実にを行います。 ■ 企画展会期中の毎週金曜日は 20 時まで開館延長します。 ■ 集客を見込む展覧会会期中に効率的に臨時開館を行います。 ■ 休館日を活用し、施設を活用した協賛金獲得目的事業などを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務の基準に基づく保守点検等を確実に行いました。 ■ 震災による 15%節電達成のため金曜20時までの延長を見合わせています。年度内の金曜延長は集客を見込むイベント開催時のみ行いました。 ■ 上半期は 15%節電達成のため臨時開館は行いませんでした。10 月以降はヨコハマトリエンナーレ 2011 の集客のため会期中は隔週休館としました。 ■ 節電により上期は館内を利用した協賛金獲得を避け、館外での営業を 4 件実施しました。

2) 施設の有効活用について

<p>【レクチャーホールの利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レクチャーホールの空き状況をホームページで公開し、利用促進を図ります。 ● レクチャーホールを活用した自主事業の展開に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会関連講演会の開催 ・ 団体客を対象とした学芸員によるレクチャー ・ 平日枠限定の割引プランの販売 <p>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</p> <p>グランドギャラリーの消防設備として湿式配管による開放型のスプリンクラーヘッドが導入されることにより、消火能力が向上し、作品展示やイベント開催上の制約が改善されます。このためグランドギャラリーの空間を展示や事業に、これまで以上に有効に活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企画展と連動した関連事業の会場として利用します。 ● Heart to Art 事業で協賛いただいた企業と連携した活動の場として活用します。 <p>【8階施設の魅力を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 50 名規模の中規模の鑑賞会を定期的実施します。芸術文化活動の場所として、主催、共催形態の商品を開発、販売します。 ● 横浜美術館塾の拠点とします。横浜美術館ならではのアート発信の場として活用を行います。 <p>【円形フォーラムの積極活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 円形フォーラム予約状況を職員全員がオンラインで共有し効率的な活用に努めます。 ● 企画展のオープニングレセプションや関連事業の会場として活用します。 ● 内部利用のみならず、外部からの利用希望にも柔軟に対応します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>【レクチャーホールの利用促進】</p>	<p>【レクチャーホールの利用促進】</p>

- 利用率 70%を目指します。

【グランドギャラリーの空間を活かした活用】

- 横浜トリエンナーレで美術作品の展示に活用します。
- 椅子やパンフレットラックなどの什器やサインスタンドの配置を通して、快適なエントランス空間としての活用を進めます。
- 企画展と連動したイベント等に活用します。
- 外部と連携した事業に活用します。

【8階施設の魅力を活かした活用】

- 目標売上 420 万円。
- 横浜美術館塾の教室として活用します。
目標売上 180 万円。

【円形フォーラムの積極活用】

- 会議やシンポジウムなどのスペースとして活用します。
- 企画展等の連携事業の会場として活用します。
- 外部と連携した活用を行います。

- 年間利用率は 88%でした。平日練習プランにお客様から要望の多かった午後区分の枠を設定しサービス向上を図りました。

【グランドギャラリーの空間を活かした活用】

- 消防設備の更新により展示制限が緩和され、ヨコハマトリエンナーレ 2011 では空間を存分に活用した作品展示を行いました。
- 15%節電達成のためグランドギャラリーの活用は見合わせました。また、ヨコハマトリエンナーレ 2011 会期中は作品が展示されているため活用できる空間がありません。外部との連携も含め下半期での活用を検討します。
- 松井冬子展ではグランドギャラリーにメガスクリーンを設営して、松井冬子が初めて取り組んだ映像作品を公開して好評を博しました。また企業広報イベントやレセプションを誘致することで、横浜美術館の広報を拡大するとともにグランドギャラリーを活用しました。

【8階施設の魅力を活かした活用】

- 8階施設は節電対応のために上期の活用を見送りましたが、下期は、コレクション・フレンズや塾の開講、鑑賞会企画で活用しました。また、施設の魅力を広報取材にも活用することができました。

【円形フォーラムの積極活用】

- 会議などの活用
 - ・財団理事会、評議員会、各種委員会の開催
 - ・各種研修の実施
 - ・視察対応
 - ・レクチャーホール抽選会
 - ・作品収集に関する委員会
 - ・次期指定管理政策経営協議会
- 企画展連携事業会場としての活用
 - ・横浜美術館塾の開催
 - ・展覧会事前レクチャーでの活用
 - ・ヨコハマトリエンナーレ関連事業
 - キッズアートガイドワークショップ
 - シンポジウム
 - 特別サポーター宣伝会議室
- 創造都市ネットワーク会議
- 外部と連携した活用
 - ・学校連携

	<p>上矢部高等学校連携授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらいホールと連携した活用 合唱フェスティバル説明会 ・西区役所との連携 キャンドルアート <p>■ その他活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Heart to Art 事業 探検ツアー会場 クリスマスコンサート控室 <p>【アートギャラリー1・2】</p> <p>■ アクセスが容易なスペースの利点を活かした活用を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/10 参院選において西区と連携しアートギャラリー1 を地域の投票所として活用しました。 ・ヨコハマトリエンナーレ 2011 ではアートギャラリー1 を団体事前レクチャー会場、サポーター控室、運営事務局として、アートギャラリー2 をオフィシャルショップ、ビジターセンター等に活用しました。 ・松井冬子展内覧会でドリンクサービス会場として活用しました。 ・市民のアトリエワークショップを開催しました。 ・横浜美術館塾、コレクション・フレンズ事業を開催しました。 ・視覚に障がいのある人と一緒につくる収蔵作品鑑賞サポートプランの「鑑賞会」を開催しました。
--	---

(2) 広報・PR 戦略について

1) 様々な手法による広報の取組

<ul style="list-style-type: none"> ● 美術館の基本的な情報および開催する主要な企画についての情報について英語での情報提供を行います。 ● 美術館の事業に親しみをもってもらえるよう、事業の進行状況等をニュース配信していきます。 ● メールマガジンを定期的に配信し事業実施についての情報提供を効果的に行ないます。 ● 各アンケート調査の結果を参考に効果的な広報につなげます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページをより見やすいものに改善して 300 万ページビューを目指します。 ■ 横浜美術館コレクション・フレンズを継続し 150 人の参加者を目指します。 ■ リピーター割引を継続します。 ■ 近隣マンションや近隣企業、病院など、少なくとも 5 施設以上との広報連携をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページはお客様の意見を反映し、目標のページビューを達成しました。 ■ 横浜美術館コレクション・フレンズは 127 口を獲得しました。 ■ 近隣マンションと横浜みなとみらいホールなどと広報連携しました。 ■ 有効アンケートは目標に十分な収集を行い、目標を達成

<ul style="list-style-type: none"> ■ メールマガジンは月 2 回の定期配信をします。 ■ メールマガジン登録者数 10% 拡大を目指し、4,400 人にします。 ■ データ分析に必要な年間 2,000 人分の来館者アンケートの収集を目指します。 	<p>しました。</p>
---	--------------

2) 情報提供

<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページで各企画展、コレクション展を分かりやすく紹介します。英語による表記を取り入れ外国人へも美術館の情報を分かりやすく提供します。 ● メールマガジンを活用しタイムリーにリピーター層に情報を提供します。 ● メディアへの情報提供を積極的におこない幅広い層に分かりやすく情報を提供します。 ● マスコミの情報提供力を活用した大規模動員型の企画展をメディアと共催します。 ● 各企画展を中心にプレスリリース、記者発表を積極的に行ない、事業の事前周知および成果を周知していきます。
--

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームページのバイリンガル化を継続するとともに外国語対応の拡大を進めます。 ■ メールマガジンを活用し情報を配信します。 ■ メディアを活用した情報提供を行います。 ■ プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年を朝日新聞社、テレビ朝日と共催します。 ■ 企画展その他、新規事業開催のたびに記者発表を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今期はホームページの一部に英語サイトを立ち上げました。 ■ 月に 2 度のメールマガジンを配信しました。また、必要に応じて、追加の臨時配信もしました。 ■ 企画展をはじめ横浜美術館のすべての事業で記者発表をおこないました。 ■ 利用者の意見を反映して、ホームページにカレンダー機能を追加しました。 ■ 開館状況についてホームページで情報を周知しました。特に通常の運営と異なるヨコハマトリエンナーレ 2011 会期中の取り扱いは丁寧な案内に配慮しました。 ■ 計画停電対応について【重要なお知らせ】としてホームページにアップしました。

(2) 顧客サービスについて

1) 新規顧客の開拓

<ul style="list-style-type: none"> ● 共同事業体である三菱地所ビルマネジメントが管理するランドマークプラザをはじめ、近隣商業施設とタイアップし、広報を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展の半券提示で飲食店割引 ・ ランドマークスカイガーデンと連携した商品開発 ● 近隣宿泊施設とタイアップして宿泊プランや展覧会特別限定メニューを企画します。
--

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展ごとに周辺商業施設と連携し、誘客方を展開し観客誘致を図るとともに、街の活性化にも貢献します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年」において、周辺商業施設との連携事業を計画していましたが、同展の中止にともない取り組めませんでした。震災直後に急遽開催した「生誕 120 年記念 長谷川潔展」では、地域と連携

	した大がかりな事業ではなく、復興支援を目的としたチャリティ事業を実施しました。
--	---

2)リピーターの獲得

<ul style="list-style-type: none"> ● 横浜美術館独自の支援プログラムを運営します。 ● リピーター割引を継続します。 観覧済みの企画展有料チケットの半券提示で団体割引とします。 ● 希望する団体入館者に対し、担当学芸員の事前ミニレクチャーを行います。 ● 約 7,000 人の近隣マンションの居住者を有望なリピーターとして、情報提供、特典の提供等を行います。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜美術館コレクション・フレンズを運営します。150 人の参加者を目指します。 ■ リピーター割引を継続します。 ■ 継続的な団体客誘致の取り組みを行います。 ■ 近隣マンション自治会と連携します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜美術館コレクション・フレンズは 127 口を獲得しました。 ■ リピーター割引を継続しました。 ・長谷川潔展実績 177 枚 ・松井冬子展 562 枚 ■ 事前レクチャーに積極的に取り組み、団体客誘致を図りました。 事前レクチャー実績 103 回 【内訳】 長谷川潔展 3 回 ヨコハマトリエンナーレ 2011 96 回 ■ 松井冬子展 4 回

3)チケット販売

<ul style="list-style-type: none"> ● メディアと共催する企画展でペアチケットや早割りチケットなどの企画チケットを商品化し販売します。 ● 美術館窓口以外での販路拡大を目指します。 ● 企画展前売券を展覧会開始日の 2 ヶ月前からミュージアムショップで販売します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ペアチケットや早割りチケットなどを企画展に応じて取り入れます。 ■ オンラインでチケットを販売します。 ■ 近隣プレイガイドでチケットを販売します。 ■ 企画展前売券は 2 ヶ月前から販売します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「プーシキン美術館展」において企画チケットに取り組みました。 ・ドガ展期間中に 500 円の割引券を配布 ・1/4 ペアチケットを販売開始 ■ 「プーシキン美術館展」においてオンラインチケットを販売しました。本展は震災の影響で中止となりましたが、払戻し対応は完了しています。 ■ コンビニエンスストア「セブンイレブン」と契約し販路を拡大しました。9/20 から取り扱いを開始しました。

	<p>販売実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松井冬子展 705 枚(前売 432 枚、当日 273 枚) ・エルンスト展 33 枚 (前売のみ) <p>■ 前売り販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プーシキン美術館展 2/1 販売開始 ・長谷川潔展 プーシキン美術館展中止による急遽の企画であったため、前売り券の販売はできませんでした。 ・松井冬子展 9/17 販売開始 ・エルンスト展 2/4 販売開始
--	--

(3) 館内サービスについて

1) 魅力あるミュージアムショップの運営

<ul style="list-style-type: none"> ● グランモール公園側の正面入口横という外部からのアクセスに優れた立地を活かし、入館者の利便向上を通じた美術館の魅力アップと収益性の両方を目指します。 ● お客様目線で、ニーズに応える商品を取り扱い、展覧会へお客様を誘導する工夫をします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会関連商品コーナーの設置。 特に横浜トリエンナーレ会期中は現代アート関連商品を取り揃え展覧会会場との統一感を演出し、展覧会を盛り上げます。 ・ 企画展前売券をオンラインで販売します。 ・ プライスカードなどのデザインを工夫します ・ オンラインショップの商品充実を図り、露出方法にも工夫をして売上を伸ばします。 ・ 近隣商業施設とタイアップし、展覧会関連商品を美術館の外でも販売します。 ・ 他館のオリジナルグッズを相互販売します。 ・ 隣接するカフェや、他施設と連携したチケット販売を行います。 ● メディアと共催する企画展では展示構成の中に特設売店も組み込み、お客様動線上に特設売店を設置します。常設ショップと相互に売上向上につながるよう取扱商品を調整します。 	
---	--

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 年間売上 5,740 万円を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 年間売上げは 107,424,155 円でした。 ヨコハマトリエンナーレ 2011 の好調と販売努力と松井冬子展カタログ売上好調により、プーシキン美術館展の中止による減収を補っています。

2) 美術館にある特徴を活かしたカフェ、レストランの提供

<p>【カフェ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 委託先と毎月 1 回の定例ミーティングを行って情報を共有し、美術館に相応しい飲食施設としての質とサービスを確保します。 ● 季節に応じたメニューを開発します。 ● 企画展ごとに特色ある限定メニューを提供します。企画展の記者発表の際には限定メニューの PR を積極的に行います。 ● カフェと連携した事業展開を行い集客につなげます。

【レストラン】

- 美術館事業についてレストランと情報を共有しお客様サービスを向上します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>【カフェ】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 展覧会と連携した特色ある限定メニューの提供や、居心地の良い空間演出など魅力的な運営を行います。■ 横浜美術館塾をはじめとする美術館事業をカフェスペースで展開し、売上げ向上に貢献するとともにお客様も楽しめる演出を行います。 <p>【レストラン】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 横浜市が主催するレストランとの定例会(月1回)に参加し美術館事業の情報提供を行います。	<p>【カフェ】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 企画展限定メニューを販売しました。 「長谷川潔展」限定<ul style="list-style-type: none">・アネモネラテ「ヨコハマトリエンナーレ 2011」限定<ul style="list-style-type: none">・ナシゴレンサラダプレート・ヘルシー豆乳氷カフェ「松井冬子展」限定<ul style="list-style-type: none">・ほくほく紫芋の抹茶セット・パープルベリーラテ■ ヨコトリ応援企画として「サンドイッチ研究所」を立ち上げ、出品作家出身国をイメージしたサンドイッチをカフェと連携して8種開発し提供しました。<ul style="list-style-type: none">・ハーブチーズとトマトのサンド(スイス)・タンドリーチキンのピタサンド ライタ添え(インド)・3種のフルーツオープンサンド(アメリカ)・ジャーマンサンド(ドイツ)・2種のイングリッシュマフィン(イギリス)・フランスパンのサーモンサンド(フランス)・ダブルチーズイタリアンサンド(イタリア)・プルコギサンド(韓国)■ ヨコハマトリエンナーレ 2011の展示スペースとして活用しました。展示作家デザインのプレートシートを作成する演出も行いました。本展示は年度末まで継続しカフェの賑わいを演出しました。■ 横浜美術館コレクション・フレンズと連携したメニューを開発しました。<ul style="list-style-type: none">・フレンズ・カレーランチ (お昼は華麗プロジェクト 2011 春)・マグカップ・コーヒー&マグカップ・ティー! (カフェでもっとアートを! キャンペーン)■ 市民のアトリエと連携し「みどりアップ・ワークショップ展」の会場となりました。 <p>【レストラン】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 横浜市主催の月1回の定例会に参加し情報共有を行いました。

(5)利用者ニーズの把握と対応について

1)利用者ニーズの把握とその反映

<ul style="list-style-type: none"> ● 企画展の入場者を対象にアンケート用紙の配置方法の改善等により有効なアンケート数を確保し、事業企画や広報に反映させます。 ● 企画展を中心にモニターを募集し面談方式で意見を聴取します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケートやモニターによる意見といった広聴情報を館の運営に反映するため、広聴反映委員会を展覧会終了ごとに開催し、運営改善を図ります。 ■ モニター募集数 500 人 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展終了後に広報反映委員会を開催し、運営改善を図りました。 ■ 企画展モニターを実施できなかったため、次期には必ず実施します。

2)クレームの的確な対応と改善

<ul style="list-style-type: none"> ● 館内でのクレームは顧客サービス員、顧客サービスディレクター、職員で、丁寧に対応します。 ● アンケート、Eメールでのクレームには広聴担当が窓口となり、迅速に回答します ● 発生したクレームは、報告書として事実関係と対応を記録して職員で情報共有し、市のモニタリングで報告するとともに事後の改善に役立てます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ クレームに対して迅速・適切に対応します。 ■ 改善できる指摘に対しては迅速に対応し、クレームの減少を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発生したクレームは顧客サービス員の日報、職員の報告書で対応策を含め情報共有し、必要な対応を行っています。 ■ ホームページに寄せられたご意見には迅速に対応しました。 ■ ヨコハマトリエンナーレ 2011 に対するクレーム対応は主体である組織委員会と連携し迅速に対応を行いました。組織委員会が取りまとめたクレーム対応は広報チームを通じて館内で情報を共有しました。

(4)組織体制について

1)専門性が十分に発揮できる組織と組織運営

<ul style="list-style-type: none"> ● 必要な分野、専門性を有する学芸員・指導員・情報担当職員を適切に配置します。 ● 隔週の定例会としてグループ長会議とチームリーダー連絡会を開催し情報共有と意見交換を行います。 ● 上記会議での議事及び決定事項は職員で情報共有します。 ● トリエンナーレの組織委員会事務局とも課題があるごとに迅速に調整打ち合わせを行います。 ● 共同事業体間の情報共有と連絡調整を図るため、定例ミーティングを実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財団と三菱地所ビルマネジメント定例会を開催します。 ・ 財団と相鉄エージェンシーとはワークショップの実施案件ごとに打ち合わせを開催します。 ● 財団のネットワークを活かした他施設及び、みなとみらい地区周辺施設との連携を図ります。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定管理者制度に基づく業務執行体制として経営管理 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画どおり 40 名を配置しています。

<p>グループと学芸教育グループを配置し、計画どおり 40 名を配置します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜市の組織統合を受けて、美術館の運営組織の中に、横浜トリエンナーレ事業を継承していく組織体制を作ります。このため 23 年度も引き続き指定管理者制度外組織として横浜トリエンナーレグループを配置し、横浜トリエンナーレ組織委員会事務局の一部を担います。 ■ グループ長会議とチームリーダー連絡会を定例会として隔週で行います。 ■ 三菱地所ビルマネジメント定例会 月1回 ■ 相鉄エージェンシー定例会 ワークショップ実施案件ごとに開催します。 ■ 財団他施設の友の会組織向けにレクチャーつき鑑賞会を企画し観客誘致を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ みらいすとクラブ(横浜みなとみらいホール) ・ かもん会(横浜能楽堂) ■ 周辺商業施設と連携した相互割引や、近隣ホテルと連携した宿泊プラン、ホテル内レストランでの特別メニュー提供などを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定管理者制度外組織である横浜トリエンナーレグループを引き続き配置し、組織委員会事務局の一部を担いました。 ■ グループ長会議とチームリーダー連絡会を隔週金曜日の定例会として開催しました。 ■ 三菱地所ビルマネジメントとの定例会を月1回行い、施設管理・運営面での情報共有と改善策の協議を行いました。 ■ 相鉄エージェンシーとはワークショップ実施案件ごとに会議を開催しました。 ■ 「プーシキン美術館展」の中止により「長谷川潔展」開催が急遽決まったため、財団他施設友の会組織向け鑑賞会の募集が間に合わず開催できませんでした。「松井冬子展」については実施できました。 ■ 周辺商業施設等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川潔展 ■ 横浜みなとみらいホールと連携し、チャリティー・コンサートを開催しました。
---	--

■施設の管理に関する振り返り■

(1)安全、安心、安定、快適な施設の維持管理について

<ul style="list-style-type: none"> ● 事故を未然に防ぎ、安全に施設を維持管理するため、職員、設備スタッフ、警備員、顧客サービス員、清掃スタッフのすべてが、現場の状況について気を配り、問題が発生した場合は迅速に対応します。 ● 発生した問題と対処までの経過は報告書を作成し館内で情報共有します。 ● バリアフリー研修を行います。 ● 収蔵庫、展示室の温湿度管理の基準を保ち、必要に応じて現場を確認しながら作品保全に努めます。 ● 展覧会場に顧客サービス員を適切に配置します。 ● 展示作品の安全な管理のため、会期前に顧客サービス員、警備員、清掃員を含む施設管理担当スタッフが担当学芸員から展示会場全体の取り扱いについて説明を受け、安全を確認します。 ● 各種工事が美術館事業の遂行に影響しないよう日程調整等を行います。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同事業体の専門性を活かした安全な施設運営を行います。 ■ バリアフリー研修を年 1 回実施します。 ■ 展覧会ごとのスタッフによる事前安全確認をポスト確認の中でおこないます。 企画展 3 回 コレクション展 2 回 ■ 工事施工について横浜市及び施工業者と事前打合せを 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の不具合について常に情報を共有し、共同事業体の専門性を活かした最善の対応を行っています。 ■ バリアフリー研修は下半期に開催予定です。 ■ 展覧会開始前の事前安全確認 企画展 3 回 ・長谷川潔展 4/27 ・ヨコハマトリエンナーレ 2011 8/4 ・松井冬子展 12/16

行い、館内の情報共有と日程調整を確実に行います。	コレクション展 2回 ・コレクション展第1期 4/27 12/16
--------------------------	--------------------------------------

(2)適切な環境維持管理について

<ul style="list-style-type: none"> ● 三菱地所ビルマネジメントのみなとみらい 21 地区エリアマネージャーが横浜美術館も統括し、スケールメリットを活かした運営を行います。 ● 施設管理部門の複数の業務を指定管理期間にわたって一括管理することで事務の軽減をはかり、業務の効率化につなげます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同事業体の専門性を活かして適切に施設を維持管理します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三菱地所ビルマネジメントとの定例会を月 1 回行い、施設管理・運営面での情報共有と改善策の協議を行いました。 ■ 三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、清掃、顧客サービス、警備、レクチャーホール管理からの日報を館内で共有し、問題点に適切に対応しました。

(3)環境への負荷の軽減について

<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミ置き場の分別表示をわかりやすくし、正しい分別がなされるように工夫します。 ● 不適切な分別が見られる場合は迅速に注意喚起を促します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ごみの分別が正しく行われるよう来館者やスタッフの啓発を行い、意識を向上させます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 表示や配置を工夫し、分別しやすいようゴミ箱を設置しました。 ■ ヨコハマトリエンナーレ 2011 では複数の外部団体が常駐するため、ゴミ出しのルールを徹底し館内美化に努めました。

(4)施設予防保全への取組みについて

<ul style="list-style-type: none"> ● 三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、顧客サービス、警備、清掃、レクチャーホールからの日報を館内で情報共有し、施設の不具合に対しては最善の対応策を館内で検討・実施します。 ● 発見された不具合については改善策を策定します。額により必要に応じて横浜市に改善案を提出します。 ● 共同事業体で負担すべき修繕は優先順位を考慮して実施します。 ● 施設管理スタッフの定例会を開催し、現場の声を運営に活かすよう努力します。 ● 業務の基準に従って保守点検を行います。 ● 修繕の必要な項目をリストアップし、優先順位をつけ横浜市に報告、提案します。 ● 横浜市の工事については、仕様書の作成やスケジュール管理に協力し、より効率的に作業が進むように努めます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 三菱地所ビルマネジメントを中心とした共同事業体のスタッフ体制で統括マネジメントを行い、施設の不具合の早期発見と改善を行います。 ■ 施設管理スタッフの定例会を月1回開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設備担当からの日報を共有し迅速な対応を行いました。 ■ 月 1 回の施設管理スタッフ定例会を計画どおり行いました。 ■ 業務の基準どおり管理を行いました。

■ 業務の基準に基づき適切に管理します。	
----------------------	--

■ 収支目標に関する振り返り ■

(1) コスト削減への努力

<ul style="list-style-type: none"> ● 施設管理部分を三菱地所ビルマネジメントが指定管理期間を通して統括管理することで、共同事業体の中にノウハウを蓄積し業務の効率化をはかります。 ● 展示室や情報センターの運営日を効率よく設定し、ランニングコストの削減をはかります。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の効率的な運営によりコスト削減をはかります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展とコレクション展の会期を統一します。 ・ 美術情報センターの蔵書点検を展覧会休室期間に設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画展とコレクション展の会期を統一し展示休室期間を使った修繕や保守点検を計画的に実施し、効率良く管理することでコスト削減を図りました。

(2) 収入向上への努力

<ul style="list-style-type: none"> ● メディアと共催する企画展を開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年朝日新聞社、テレビ朝日との共催 ● 団体客を誘致するため、福利厚生団体との連携や観光バスツアーへの展覧会組込み、事前レクチャーの実施などに積極的に取り組みます。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 収益の見込める企画展を開催します。 ■ 団体客誘致に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 収益を見込める企画展として「プーシキン美術館展」開催予定でしたが、震災の影響で中止となりました。 ■ 担当学芸員による団体向け事前レクチャーサービスを行うなど団体客誘致に努めました。 <p>【上半期団体数実績】</p> <p>長谷川潔展 17 団体</p> <p>ヨコハマトリエンナーレ 2011 128 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 松井冬子展 10 団体

■ その他の計画に関する振り返り ■

(1) 危機管理対策の充実について

<ul style="list-style-type: none"> ● 消防訓練を実施し、職員の防災意識向上を図ります。 ● 消防計画を作成し運用します。 ● 事業実施にあたり概要を所轄消防署に届出ます。特例認定を受けているグランドギャラリー大屋根下部分でのイベントは事前に所轄消防署と協議を行い、適切に運営を行います。 ● 危機管理マニュアルを必要に応じて改定し、最新のものを職員に周知するとともに、事務室内に常備します。 ● 毎日の現金管理を確実にを行います。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 消防訓練を年 2 回実施します。 ■ 消防法を遵守した施設管理を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防火防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回 6/15 実施

<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展及びイベント開催ごとに消防署に届出を行います。 ■ 危機管理マニュアルは常に最新のものを整備します。 ■ 安全な現金管理を行うため、金庫内の現金を毎日数え、現金有高表を作成します。 ■ 毎日の売上げ集計は複数名で確認して、確実にを行います。 	<p>津波を想定した訓練を西消防署と合同で行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回 1/30 実施 文化財保護デーにちなみ、西消防署と連携して行いました。 ■ 危機管理マニュアルは最新のものを共有しています。 ■ 金庫内の現金は毎日数え、現金有高表を作成しています。過不足がある場合は原因を明らかにして対処しています。また、金庫鍵の保管場所取り扱いの厳格化を図りました。 ■ 毎日の売上げは券売システム集計との一致を確認後、複数名で現金を確認し入金しています。 ■ 金庫の鍵の保管について、カード式のキーボックスを導入しました。鍵の使用権限を職員ごとに割り振り、使用者と使用時間をシステムに記録し、現金管理をより確実なものにしました。
--	---

(2) 自己評価、PDCA サイクルの導入と確実な運用について

<ul style="list-style-type: none"> ● 企画展終了時に入館者数や収支、広報実績等をまとめ、評価及び反省点を館内で協議し、今後の計画に反映します。 ● アトリエや横浜美術館塾などの講座については、定員達成度やお客様の声を定期的にとりまとめ、館内で協議するとともに、次回の計画立案に活かします。 ● 外部の意見を取り入れて運営を改善するため、3名の経営アドバイザーによる経営アドバイザー会議を開催します。多角的に意見を取り入れるため、アドバイザーは経営分野、マーケティング分野、学芸分野からそれぞれ1名ずつとします。任期は平成22年度～23年度の2年間とします。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業ごとに個別事業評価で自己評価を行い、次の事業計画に反映します。 ■ 年に2回事業全体を振り返り指定管理者制度に基づく自己評価を行います。中間振り返りを10月に、年間振り返りを翌年度4月に行います。 ■ 経営アドバイザー会議を年2回開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財団の個別事業評価システムにより自己評価を行いました。 ■ 上半期の振り返りを10月に、年間振り返りを来年度4月に行いました。 ■ 経営アドバイザー会議 年1回開催 第1回経営アドバイザー会議 3/5 上半期はヨコハマトリエンナーレ 2011 の準備で日程調整ができませんでした。

(3) 情報公開、説明責任の的確な実施について

<ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報保護研修を職員全員を対象として実施します。 ● 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算をホームページに公開します。 ● 新収蔵作品目録を発行します。 	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報保護研修を年1回実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報保護研修

<ul style="list-style-type: none">■ 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算を評議員会承認後 1 ヶ月以内にホームページで公開します。■ 新収蔵作品目録を作成します。	<p>職員を対象として 1/18 と 2/6 に開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none">■ ホームページへの公開<ul style="list-style-type: none">・平成 22 年度業務報告及び収支決算 7/10 公開・平成 24 年度業務計画及び収支予算 3/27 公開
---	---

5 決算

平成 23 年度 横浜美術館決算

収入

(単位:円)

項目	決算額	備考
指定管理料	519,375,000	
利用料金	73,902,805	コレクション展、レクチャーホール、特別利用料(図版等)、駐車場
事業収入	160,150,397	企画展(共催事業含)、アトリエ、横浜美術館塾
助成金等	27,508,791	企画展、コレクション・フレンズ、観客誘致協賛金、助成金等
その他収入	113,116,180	ショップ、カフェ等
合計	894,053,173	

支出

(単位:円)

項目	決算額	備考
人件費	271,112,566	公益会計分
事務費	162,526,215	公益消費税、券売システム、経理・金融システム利用費
管理費	107,963,665	施設管理経費等
事業費	178,901,208	企画展、コレクション展、アトリエ、観客誘致、学芸業務、図書事業等
負担金	3,757,759	年会費等負担金
その他の支出	98,858,475	ショップ、カフェ、駐車場等経費(人件費、消費税等含)
合計	823,119,888	

収支差額	70,933,285	
------	------------	--

6 人員配置

項目	人数	備考
館長	1	
主席学芸員	1	
グループ長及び担当グループ長	5	経営管理グループ長1、学芸教育グループ長1、学芸教育担当グループ長1、創造活動支援担当グループ長1、マーケティング担当グループ長1
チームリーダー及び担当リーダー	9	経営管理チームリーダー1、主任学芸員2、主任コーディネーター1、担当リーダー5
職員	24	経営管理グループ10、学芸教育グループ14
計	40	学芸員12、指導員7、司書3、事務職18

7 平成 23 年度事業一覧

事業名	開催日	主催、共催など	入場料 受講料	入場 者数
生誕 120 年記念 長谷川潔展	4/29-6/26	主催:横浜美術館 協力等: [協力] 総合版画工房プリン トハウス オー・エム、横浜高 速鉄道株式会社、横浜ケー ブルビジョン、FM ヨコハマ、 首都高速道路株式会社	一般 1000 大高生 700 中学生 400	23,835
ヨコハマトリエンナーレ2011	8/6-11/6	主催:横浜市、NHK、朝日 新聞社、横浜トリエンナーレ 組織委員会 共催:公益財 団法人横浜市芸術文化振 興財団	一般 1800 大学・専門学 校生 1200 高校生 700	184,562
松井冬子展 ― 世界中の子と友達 になれる	12/17-3/18	主催:横浜美術館 協力等: [協力] 横浜高速鉄道株式 会社、横浜ケーブルビジョ ン、FM ヨコハマ、首都高速 道路株式会社	一般 1100 大高生 700 中学生 400	71,550
横浜美術館コレクション展 第1期	4/4-6-26	主催:横浜美術館	一般 500 大高生 300 中学生 100	29,535
横浜美術館コレクション展 第2期	12/17-3/18	主催:横浜美術館	一般 500 大高生 300 中学生 100	74,606
子どものアトリエ 親子のフリーズゾーン	4/10-3/18	主催:横浜美術館	無料~100	22,844
子どものアトリエ 個人の造形プログラム	4/10-3/20	主催:横浜美術館	1,000~9,000	1,433
子どものアトリエ 鑑賞教育事業	4/10-3/31	主催:横浜美術館	無料	679
子どものアトリエ 学校のためのプログラム	4/13-3/7	主催:横浜美術館	無料	7,143
子どものアトリエ アウトリーチ (Heart to Art)	7/25-12/8	主催:横浜美術館	無料	363

子どものアトリエ 指導者育成事業	通年	主催:横浜美術館	無料～8,000	650
市民のアトリエ事業 2011年度ワークショップ	4/23-3/31	主催:横浜美術館 共催:環境創造局 環境活動支援センター(横浜みどりアップ計画) 協力等:[協力] 経済観光局(横浜マイスター)	500～38,500	5,785
横浜市芸術文化教育プログラム推進事業	4/13-3/31	主催:横浜市芸術文化教育プラトホーム事務局(NPO法人 ST スポット、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局) 共催:横浜美術館	—	356
横浜美術館塾	通年	主催:横浜美術館	無料～4,000	501
横浜美術館コレクション・フレンズ	通年	主催:横浜美術館	—	115
Heart to Art	通年	主催:横浜美術館	—	2社